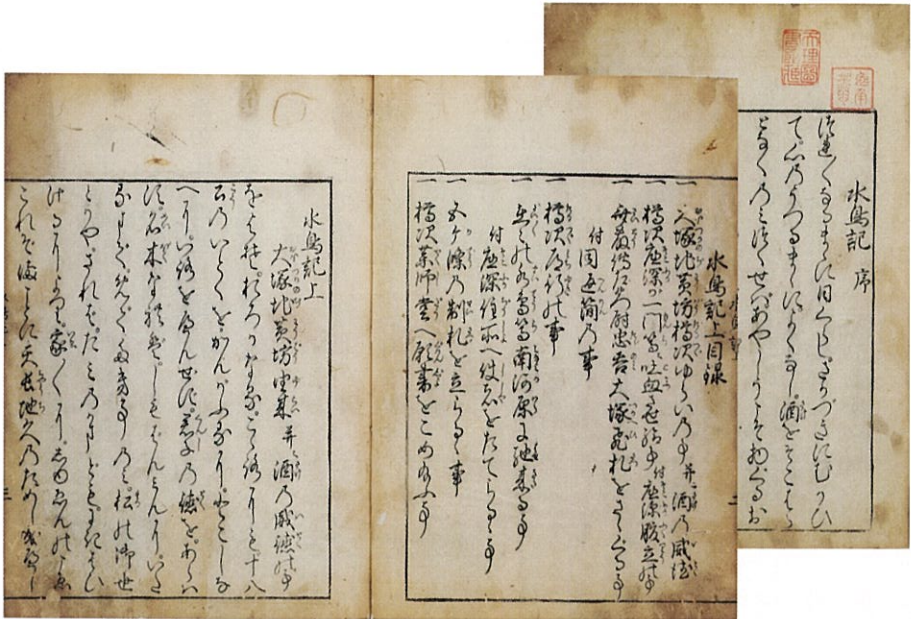


やまとの名品 天理図書館



すいぢょうき
水鳥記

じおうほうたるつぐ
地黄坊樽次著

寛文7(1667)年刊 2巻合1冊

縦27cm 横19cm

「つれづれなるままに 日ぐら
し さかづきにむかひて」と「徒
然草」をもじった文章で始まり、
書名からは水鳥の図鑑かとも思
えるこの本、実は江戸時代の酒
合戦を綴ったもの。「水鳥」は
「水」に「シ」と「鳥」に「酉」
とで「酒」の意。

慶安元年（一六四八）に川崎
の大師河原で実際にあった飲酒
合戦を軍記物語風に綴った作品。
地黄坊樽次率いる東軍十七名が、
大師河原の大蛇丸底深率いる西
軍十五名の元に押し寄せ、大将
が采配をふるって相手方を飲み
潰させるという、まさに合戦譚。
大将の名前だけでなく、各軍の
面々が三浦新之丞樽明、斉藤伝

左衛門忠吞、米倉八郎右衛門吐
次、藪下勘解由左衛門尉早吞
等々というのも面白い。結果は
東軍の圧倒的勝利に終わったが、
東軍の大将地黄坊樽次こと茨木
春朔（一六一四～一六七一）は
医師にして儒者。辞世の歌は
「南無さん宝あまたの樽を飲干
して 身は空樽にかへる古里」
と、最期まで酒好きだった。

江戸時代にはこの他にも酒合
戦が行われたようで、中でも文
化十二年（一八一五）の千住酒
合戦、文化十四年（一八一七）
の万八楼酒合戦が有名。大師河
原の団体戦に対してこちらは個
人戦。中には五升入りの杯で十
一杯呑んだという、俄には信じ

がたい記録も残されている。

近年、大蛇丸底深こと池上太
郎右衛門幸広の没後三五〇年を
記念して、川崎の郷土史会が記
念行事「水鳥の祭」を開催。毎
年十月には同様の酒合戦を再現
されている。

（天理図書館 大西光幸）



天理図書館のお知らせ Tel : 0743 - 63 - 9200 <http://www.tcl.gr.jp/>

◆平日（午前9時～午後5時半） 土・日・祝（午前9時～午後4時半）

○9月の休館日：19日・30日

（本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください）